

飯田市>やらまいか提言箱にいただいた提案内容と回答を紹介します

## 【提言】リニアを見据えた地域づくりについて

掲載日：2014年2月20日更新

私は近隣自治体の住民ですが、下伊那の中心市である飯田市については関心をもっております。

リニア新幹線計画について現在は、各都県の環境関連の組織が都知事、県知事の意見書のために環境影響評価の準備書について審議検討を行っているところですが、推進の立場からすればかなり厳しい意見が出されておるようです。また、関係自治体の多くの首長さんたちは、工事中の生活環境に関連して大いなる懸念を示しているように思います。

ご存知のように、リニア事業自体に疑問を呈する識者の中に橋山禮次郎さんという方がおられます。『必要か、リニア新幹線』（岩波書店）、あるいは最近では『世界12月号』の「再考されるべきリニア新幹線計画——問われる政治の責任、建設強行は国家百年の愚策」などの論考があります。橋山さんは、日本開発銀行調査部長の経験のある政策評価、公共計画、経済政策の専門家です。

牧野市長さんの経歴を拝見いたしますと、前職は橋山さんと同じ日本開発銀行に20年勤務の超ベテランであり、専門的な知識、見識は橋山さんとほとんど同じと推察いたします。であるのに、お二人のリニア中央新幹線の事業についての評価は正反対のように思えます。

リニアのような事業は中途半端な結果に終わることは許されないと 생각합니다。工事さえ行われればよいのだというような発想も許されないはずです。

橋山さんのリニア事業に対する見解の論理的、あるいは事実認識上の欠点などについて、牧野市長さんのご意見というかご批判を明かになさったらいかがかと存じます。東京から著名人を呼んでシンポジウムを開くのもよかろうと思いますが、リニア事業自体についての明確な批判があるのですから、どのような形でもよいので、それにたいする正々堂々の反論をなさることは、リニア建設推進にとって大きな力となるのではないかと思います。

### 市からの回答

この度は、「やらまいか提言」にリニア開業を見据えた地域づくりについてのご提言をいただき、ありがとうございます。

リニア中央新幹線につきましては、昨年9月に、東海旅客鉄道株式会社（以下「JR東海」と言います。）が環境影響評価法に則り環境影響評価準備書を公表し、ルートの詳細とともに駅位置は飯田市上郷飯沼附近に設置することを明らかにしました。

当市はこれまでも、リニア中央新幹線建設促進飯伊地区期成同盟会の一員として、国や県を始めとする関係機関と連携しつつ、早期開通に向け地域一丸となって取り組んでまいりました。

また、株式会社日本総合研究所主席研究員の藻谷浩介氏（元株式会社日本政策投資銀行（旧 日本開発銀行）参事役）をお招きし、数々の実例や実際のデータに基づく分析結果等を踏まえたアドバイスをいただきつつ、さまざまな角度からまちづくりを研究してまいりました。

中央新幹線計画に対しては橋山氏のほか全国の識者、或いは関係者の方々の間で様々な

ご意見があり、特にルート沿線地域の皆様には自然環境や生活環境への影響について御心配や御不安を抱えておられる方も多くいらっしゃいます。

こうした御意見に対しては、論破しようという姿勢で対峙するのではなく、今後も真摯に耳を傾け、市民の皆様の不安を軽減できるよう、JR東海はもとより国や県を始めとする関係機関とも連携しつつ取り組んでまいります所存です。

また当地域では、リニア中央新幹線の整備効果を最大限に活用し、マイナスの影響を最小限に抑える取り組みを進めるため、リニア開業を見据えた地域の将来像を示す「リニア将来ビジョン」を策定しています。「守るべきものは守り将来に伝え、備えるべきものは備えていく」との理念に基づき、地域の特性を活かした産業の振興・観光振興や、この地域独自の魅力を発揮できる地域づくりに今後も取り組んでまいります。

回答の担当課 リニア推進課

<http://www.city.iida.lg.jp/soshiki/34/teigen14-2-20-4.html>

## 【提言】リニア中央新幹線の予定ルートにおける活断層について

掲載日：2015年10月14日更新

日本には活断層が多いため、リニア中央新幹線が走ることができるか疑問に思っています。大丈夫でしょうか。

市からの回答

この度は、やらまいか提言「リニア新幹線の予定ルートにおける活断層」についてのご提言をいただき、ありがとうございました。

JR東海では、これまで行ってきた事業説明会やホームページなどで、

「リニア中央新幹線の活断層の状況については、昭和49年から当時の国鉄が、平成2年からはJR東海が主体となり調査を行い、十分把握している。ルートを選定にあたっては、これまでの調査に基づき、活断層はなるべく回避する、通過する場合は活断層をできる限り短い距離で通過するようにし、さらに活断層の形状を十分に調査したうえで、通過の態様に見合った補強を行うなど注意深く配慮して工事計画を策定する。」としています。

また、平成26年8月に、国土交通大臣と環境大臣の意見を踏まえて公告された環境影響評価書においては、路線選定の考慮事項として、「活断層は回避するか、やむを得ず通過する場合は、延長をできる限り短くする。また、近接して並行することは避けて計画する。」と表記されています。

このように、リニア中央新幹線のルート選定にあたっては、長年の調査に基づき検討されており、国の意見も踏まえたものとなっています。

回答の担当課 リニア推進課

<https://www.city.iida.lg.jp/soshiki/34/teigen15-10-14-01.html>